

立憲民主党で小選挙区から8期目当選

立憲民主党副代表 近藤昭一 衆議院議員は、みんなの政治を取り戻すため頑張っています。今国会の、今問われている国政課題と立憲民主党をめぐる現状について語っていただきました。



近藤昭一プロフィール

1958年、名古屋出身。千種高校、上智大学卒。中日新聞社を経て、1996年衆議院議員初当選。以後8期連続当選。衆議院外務委員会筆頭理事、総務委員長、環境副大臣等を歴任。現在、立憲民主党副代表、立憲フォーラム代表、原発ゼロの会共同代表等。

拝啓 先の第48回衆議院総選挙において、8期目の当選を立憲民主党で果たさせていただきました。9月25日の安倍首相の解散への記者会見、10月2日の枝野代表の立憲民主党結党への記者会見と、予想もしなかったことが短い時間の中で起きました。困難な状況の中で、多くの皆さまにお支えいただきました。

特別国会は11月1日に召集されました。会期は12月9日までの39日間になりましたが、自民党は野党の質問時間の大幅削減を要求、民主党政権時代には与党1対野党9(当時は自民党)という時もあった中、森山裕国会対策委員長は「与党5・野党5」を主張し、結局は「与党1・野党2」の配分となりました。

15日に開かれた文科委員会では、立憲民主党の逢坂誠二議員の「加計学園が4条件をクリアしていると、いつ誰が、どの場で検証・検討したのか」という問に対して、内閣府政務官は答弁できず、しばしば審議が止まりました。与党は政府の法案提出前に党内で審議していますし、政府は野党の質問に対して答弁することで、法案の正当性を主張できます。つまり、与党の要求は単に野党の質問時間を奪うためのものです。また、会計検査院は森友学園への国有地売却の値引き額6億円には疑念を持っているとの報道もあります。

今後、改憲論議を安倍政権が仕掛けるなか、しっかりとリーダーシップを発揮していきます。数合わせにとられることなく、政治の理想を求め、この新しい政党が政権政党に成長出来るようしっかり頑張ります。

敬具

2017年11月20日

衆議院議員 近藤昭一